

第6回 県道長井古座線 八郎山トンネル技術検討委員会

議事要旨

1. 日時：令和7年5月23日（金） 10：30～11：30（現地調査）
13：00～13：50（会議）
2. 場所：八郎山トンネル（現地調査）、和歌山県水産試験場 2階 学習ホール（会議）
3. 委員：（敬称略、出席者のみ）
 - ・大西 有三（京都大学）：委員長
 - ・砂金 伸治（東京都立大学）：委員
 - ・日下 敦（国立研究開発法人 土木研究所）：委員
 - ・中本 純次（和歌山工業高等専門学校）：委員
4. 議事要旨
 - ①現地調査にて、覆工コンクリートの撤去、鋼アーチ支保工の撤去・再設置が適切な方法で施工されていることを確認した。
 - ②修補工事の進捗に関する報告を受け、覆工コンクリートの撤去、鋼アーチ支保工の撤去・再設置時の計測結果から変位も小さく、地山も安定していることを確認した。
 - ③修補工事の今後の進め方について意見交換を行い、以下の点について確認した。
 - ・インバートコンクリート工の確認調査の結果、不適格な部分は取り壊して、再設置すること。
 - ・インバートコンクリート工の撤去・再設置時も計測を実施し、各変位成分を確認したうえで作業手順を検討し、変位収束の確認を徹底すること。
 - ・覆工コンクリートの施工は供用開始後の維持管理を考慮し、湧水に対し排水工と防水シートが機能していることを確認してから施工すること。また、覆工コンクリート打設後は、亀裂等が発生していないか注視し、必要に応じた対策を講じること。
 - ・修補工事の工程について、現場の安全確保を最優先に進めてきたことに加え、インバートコンクリート工の修補範囲が当初想定していたよりも広範囲となったことから、修補工事の完了が令和8年夏頃の見込みとなること。
 - ・インバートコンクリート工の撤去・再設置が工程のクリティカルとなるが、安全性の確保を最重要ポイントとして、工期短縮を検討すること。